

インフォメイト

Vol.18
April
2018

【特集】

コージョーセンに触れてみましょう

新規導入のSPECT-CT

外来患者さんと薬剤師との関わり

第7回ブラック・ジャックセミナーの開催

バス路線の運行終了

第24回市民公開講座



私たち糖尿病・内分泌内科では、糖尿病や脂質異常症など生活習慣に基づく代謝異常症や、さまざまな内分泌疾患の診療をしています。生活習慣病については説明するまでもないでしょうが、内分泌疾患は、なじみがないかもしれませぬ。内分泌疾患とは、頭の中にある視床下部・下垂体、首にある甲状腺（こうじょうせ）ん・副甲状腺、お腹にある膵臓・副腎などホルモンを産生するいろいろな臓器に発生する病気です。

これらのうち最も多いのは甲状腺疾患で、外来受診される内分泌疾患の患者さんでは、半分以上の方がこれに相当します。甲状腺は、首前方の付け根に存在する蝶のような形の臓器（下図）で、モンシロチョウより少し大きく2cm程度の厚さがあります。簡単に触れることができるので、ぜひ触ってみてください。実際の診療でも甲状腺に触れて大きさを確認しています。しかし、異常がない場合には、これが甲状腺とわかるような大きさや固さを触れることは少ないので、「このへんかな？」といった感じに終わってしまうでしょう。橋本病のように大きく硬くなるとその存在を感じる

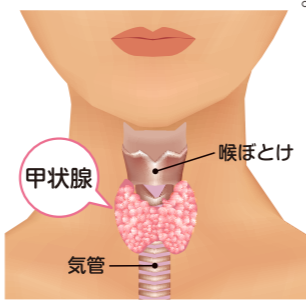


ことができません。また、大小の結核が発生する臓器ですので、何かのたまり（しこり）を触れることがあるかもしれません。

甲状腺の診療では、触診以外に血液検査・超音波断層検査を行います。血液検査では、甲状腺の機能と抗体などを診て、超音波断層検査では、甲状腺の形と大きさ・構造などを診ます。ここで結核が認められた場合は、針（採血用の針より1サイズ細いもの）を刺して細胞を採取し病理診断科に送ります。顕微鏡で観察して評価するためです。ほとんどの結核は良性ですが、悪性のもも存在します。甲状腺の悪性腫瘍は、手術すればきちんと治るものが多いため、積極的に検査し治療することが望ましいとされています。

結核のなかには、悪性ではないけれどもホルモンを過剰に産生するものがあります。このような結核を診断するためには、放射線科によるシンチグラフィの検査が必要となります。私たち以外に病理診断科、外科、放射線科などの医師、専門的な技術を習得した技師が協力しながら甲状腺の診療にあたっています。

あなたの首に何か気になるものが触れたら、まずは近所のクリニックに相談してください。必要があれば紹介を受け、当科へ受診していただければと思います。



糖尿病・内分泌内科医長 大黒 晴美



コージョーセンに触れてみましょう

地域医療連携室だより！

入退院支援の推進について

【診療報酬改定について】
平成30年4月1日、医療報酬と介護報酬の改定が同時に行われました。その中で当院の地域医療連携室に関わるものとして、「入退院支援の推進」という項目があります。

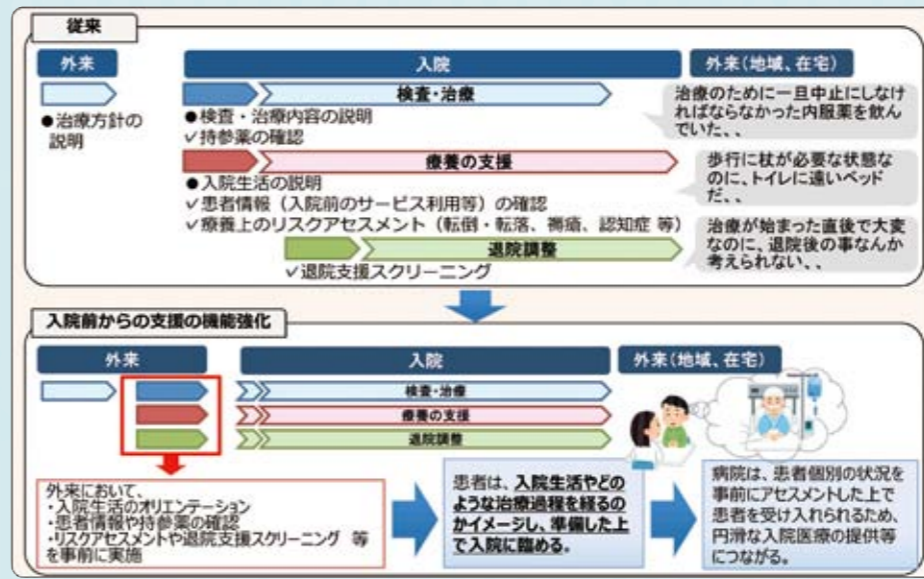
【入退院支援の推進とは】

「入退院支援の推進」とは、入院前からの支援強化や退院時の地域との連携を推進するなど、住み慣れた地域で継続して生活ができるよう、切れ目のない支援を推進するものです。入院予定の患者さんが安心して入院医療を受けられるよう、外来の時点で入院中に行われる治療の説明、入院生活に関するオリエンテーション、持参薬の確認、褥瘡（じよくそう、床ずれ）・栄養状態の確認等を行い、入院に向けたより優しく丁寧な医療を推進します。

【これまでと、今後】

下のイメージ図をご覧ください。2年前の平成28年度の診療報酬改定では、図の上段のように、入院後に様々な手続きや支援の「退院支援」を行ってまいりました。今回の改定では、図の下段のように、入院前の外来通院の段階から入院が決定した患者さんに対して支援を行い、「入退院支援の推進」を図ります。当院は、今後も医師、看護師、ソーシャルワーカー、薬剤師やリハビリテーションスタッフなど、多職種職員によるチーム医療を推進し、患者さんの支援を行ってまいります。

入院前からの支援の機能強化（イメージ図）

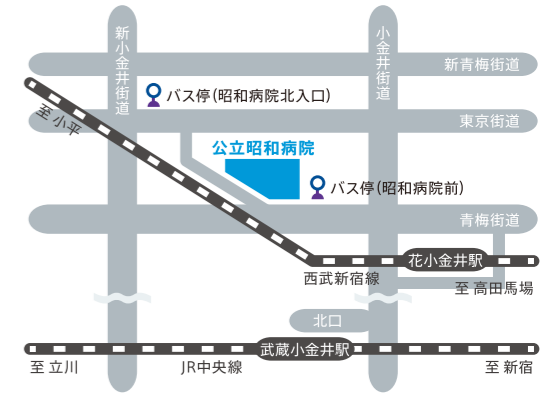


《公立昭和病院の理念と方針》

- 【理念】
一人ひとりの命と健康を守り、医療の質の向上に努め、熱意と誇りを持って地域社会に貢献することを目指します
- 【方針】
- 1 地域医療支援病院として地域連携を推進します
 - 2 科学的根拠に基づいた医療を提供します
 - 3 急性期病院として高度専門医療、救急医療を実践します
 - 4 がん拠点病院としてがんの予防から治療までを担います
 - 5 信頼される優れた医療人を育成します
 - 6 健全な病院経営に努めます

当院は、東京都多摩地域の小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、西東京市の7市で構成されている昭和病院企業団により運営されています。標榜診療科は全31科。休日・夜間救急医療をはじめ、高度・専門医療、予防医学的事業、地域医療センターとして高い機能を発揮して、地域の医療需要と信頼に答えています。

Access



公立昭和病院
〒187-8510 東京都小平市花小金井8-1-1
tel.042-461-0052 fax.042-464-7912
<http://www.kouritu-showa.jp/>





新規導入のSPECT-CT

放射線科核医学室

平成30年3月に、X線CT組合せ型SPECT装置(以下SPECT-CT装置・左下写真)を導入しました。文字通りSPECT装置(※)にCT装置を合体させた最先端の装置です。従来のSPECT装置にCT装置を組み合わせたことで、体の形や大きさが把握でき、より正確な画像計算から画質が向上しました。また、SPECT画像とCT画像のFusion(画像重ね合わせ)が容易なため、腫瘍などの正確な位置情報を得ることができます。

このSPECT-CT装置には、イメージングアプリケーションが搭載されているので、PET装置のような定量計測(SUV表示)が可能になりました。そのため、定期的な検査により、腫瘍への治療効果を正確に測定することができます。

診断用16列検出器CTのSPECT-CT装置としては、都内で唯一(平成30年3月現在)の骨検査高精度イメージングライメントを搭載しており、今までは比較にならない高分解能な骨シンチグラフィSPECT画像が得られ、腫瘍の形や位置、個数までも正確に画像化できます。また、CT部分も被ばく低減技術を搭載しており、検査時の被ばくを最小限に抑えることができます。

最先端で高度な装置を地域の皆さんに有効活用するため、放射線科核



SPECT-CT 装置

医学室スタッフは、日頃より学習・研修・努力をしております。

※SPECT(スペクト) single photon emission computed tomography の略で、人体に微量の放射性医薬品を投与し、ガンマカメラで捉えた放出される放射線をコンピュータ処理して断面画像などを得る装置です。ガンマカメラには、シンチレーション(蛍光体)が利用されているため、できた画像をシンチグラフィとも呼びます。



第7回ブラック・ジャックセミナーを開催しました

子どもたちに医師や医療スタッフの仕事を実際に体験してもらうことで、検査や治療の大切さ、命の尊さを知っていただく「ブラックジャックセミナー」を3月4日(日)に開催しました。第7回の今回は、小平市・東村山市・東大和市の4・5年生現5・6年生を対象に募集を行い、多数の応募の中から抽選で30名の児童が参加しました。

寒天の中のものを超音波検査装置のモニター画像を見ながら当てる「エコー体験」など、さまざまな医療体験のほか、検査技師からMRI装置の詳しい説明を聞くなど当院施設を見学し、最後は院長から修了証が一人ひとりに渡されました。



修了証



手術縫合体験



エコー体験



内視鏡トレーニング体験



MRIの見学



超音波メス体験



外来患者さんと薬剤師との関わり

薬剤師長 本田一春

病棟の薬剤師が、入院患者さんの服薬指導を行ったり、チーム医療の一員として、医師・看護師と一緒に患者さんのベッドサイドまで行くことが当たり前になってきました。当院では、13の病棟に専任の薬剤師を複数人配置し、入院した患者さんに対し毎日一定の時間、薬をおとして治療に関わっています。今回は、外来患者さんと薬剤師の関わりをご紹介します。

入院・持参薬センター

入院・持参薬センターでは、服用している薬と服薬状況を入院前に確認させていただいています。また、医師が手術・処置などを行う場合に服薬中止の指示を出すことがあります。

私たち薬剤師は、医師の指示に基づき、具体的などの薬を止めたらいいのかを分かりやすく患者さんに説明し、入院当日、中止したかどうかの確認を行います。その他、薬のアレルギーの聞き取りも行い、院内の医療者と情報を共有しています。



入院・持参薬センター

当院の薬剤師は、地域の医療機関・薬局の方たちと連携を図り、国が目指す地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築・運営に協力していくため、日々、業務に努め研鑽しています。

通院治療センター

通院治療センターでは、ベッドとリクライニングチェアが整備され、抗がん剤による治療などを行います。薬剤師は感染予防のため、クリーンな環境の安全キャビネットにて注射薬剤のミキシング(調製)を行うほか、副作用の説明や薬への疑問に答えられる体制を整えています。薬についてお聞きになりたいことがある方は、ぜひ声をかけください。



通院治療センター



バス路線の運行終了のお知らせ

西武バスにより運行されてきました久留米31系統(東久留米駅西口・滝山営業所)のバス路線が、平成30年3月30日をもって終了しました。

東久留米駅方面から当院へのアクセスにつきましては、当院ホームページをご覧ください。ご覧いただくか、当院1階総合案内で確認ください。

運行終了バス路線 西武バス久留米31系統

「東久留米駅西口」～「昭和病院」 「滝山営業所」～「昭和病院」

市民公開講座にお越しください。



お腕とわんこ(犬)をモチーフにした東大和市観光キャラクター「うまべえ」

公立昭和病院 第24回 市民公開講座

日時 平成30年5月19日(土)
開場: 14:00
講演: 14:30~16:00

場所 東大和市市民会館
ハミングホール(小ホール)
(西武拝島線 東大和市駅徒歩7分)
地下有料駐車場あり
※駐車場の状況により早くから満車になる場合がございます。

第1部 抗生物質(抗菌薬)との上手なつきあい方
公立昭和病院 感染症科部長 小田 智三

第2部 泌尿器がん(前立腺がん・膀胱がん・腎がん)について
公立昭和病院 泌尿器科部長 塚本 哲郎

第3部 大腸がんの早期診断と治療
東大和病院 消化器科 オスタベンコ・ハレンチナ

(お問い合わせ)
公立昭和病院 医事課 医事管理係
042(461)0052代 内線 2171
東京都小平市花小金井8-1-1

主催: 公立昭和病院 共催: 東大和市医師会 後援: 東大和市